日常に潜む危険

着衣着火にご注意を！

着衣着火とは、調理中のガステーブルの火が袖口に燃え移るなど、
何らかの火が着ている服に着火した火災をいいます。

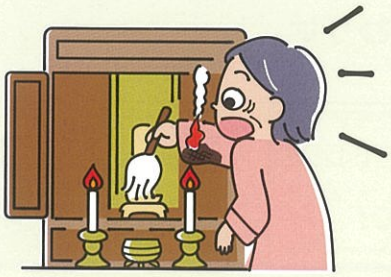
着衣着火の件数、死傷者数共に増加傾向にあります。

コンロでお湯を沸かすため火をつけた。袖口のボタンをはずしていたため、火がついて軽いやけどをした。(70歳代男性)

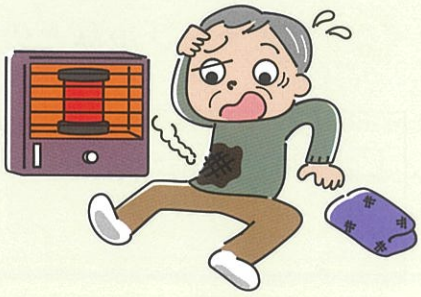
料理中にコンロに近づき過ぎて火に触れて、化学繊維のエプロンが溶けた。(60歳代女性)

鍋で調理中、ガステーブル奥の食器洗浄機のフタを閉めようとしたところ、袖下がゆったりとした服の右袖に火が着き、やけどをした。(40歳代女性)

母親の手伝いをするためガステーブルの近くにいたところ腰部に着火し軽いやけどをした。(10歳未満男児)



仏壇の掃除中に、ろうそくの火が寝間着の袖に燃え移り、右半身に大やけどをした。(80歳代女性)



反射式石油ストーブの前で横になっていたところ、セーターの腹部が焦げていた。(70歳代男性)

もしものために！防炎（ぼうえん）品を使いましょう！

火が接しても着火しにくい防炎品のエプロン・アームカバーを使い、調理中の着衣着火を予防しましょう。

目印はコチラ

公益財団法人 日本防炎協会
JAPAN FIRE RETARDANT ASSOCIATION

もし着火しても、
防炎（ぼうえん）品を使用していれば
燃え広がりません

同時着火50秒後

「防炎」は「不燃」とは異なり、あくまでも
「燃えにくい」という性能を示す用語であり、
繊維等が小さな火源に接しても容易に燃え上がらず、
もし着火しても自己消火性があり、際限なく燃え広がらないことを意味します。

⚠ 着衣着火防止のポイント

1. 調理中は、マフラー・ストールなどは外し、すそや袖が広がっている服を着ている時は、特に炎に接しないように注意しましょう
2. ガステーブルなどの奥に、物をおかないようにしましょう。
3. 金属製湯たんぽは、直接火にかけると危険です。
4. 鍋などの底から炎がはみ出さないよう、適切な火力に調整しましょう。
5. カセットコンロなどは取扱説明書をよく読んで正しく使いましょう。
6. ガステーブルなどのまわりは、整理整頓しましょう。

日本防炎協会 ホームページ アドレス
» http://www.jfra.or.jp

防炎製品の寝具等（ふとん類、シーツ・カバー類、毛布、タオルケット、マットレス、枕等）や衣服類（パジャマ、寝間着ゆかた、割烹着、エプロン、アームカバー、作業着等）などはまだどこでも手に入るほど普及しておりませんが、
詳しくは当協会ホームページの『店舗情報』をご覧ください。

公益財団法人 日本防炎協会
JAPAN FIRE RETARDANT ASSOCIATION

＜本　　部＞〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 4-1-5 共同ビル 9F TEL.03-3246-1661 FAX.03-3271-1692
＜北海道事務所＞〒060-0031 札幌市中央区北 1 条東 1 丁目 4-1 サン経成ビル TEL.011-222-3928 FAX.011-232-2545
＜名古屋事務所＞〒460-0015 名古屋市中区大井町 3-15 日重ビル TEL.052-321-4344 FAX.052-321-4343
＜京都事務所＞〒600-8177 京都市下京区烏丸通五条下ル大坂町 391 第 10 長谷ビル ... TEL.075-353-4675 FAX.075-353-4676
＜大阪事務所＞〒540-0011 大阪市中央区農人橋 2-1-30 谷町八木ビル TEL.06-6947-8844 FAX.06-6947-8846
＜九州事務所＞〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町 3-10 福岡消防会館 TEL.092-271-4525 FAX.092-284-6350